

研究, 日本気象学会1976年度春季大会講演予稿集, 70.

立平良三, 1961: 台風の降雨帯の解析, 研究時報, 13, 264-279.

——, 1971: 帯状エコーの生成・維持に必要な総観場の条件, 研究時報, 23, 341-355.

——, 1976: 雨滴成長を考慮した地形性降雨の計算, 天気, 23, 96-100.

## 資 料

高知県, 1974: 高知県気象 30 年報 (1941~1970), 430 pp. (高知地方気象台編).

日本気象協会高松支部, 1972: 四国雨量月報, 17, 7.

大阪管区気象台, 1964: 大阪管区気象台異常気象報告, 11, 3 (台風6309号調査報告), 1-75.

## 第19期第2回常任理事会議事録

日 時 昭和51年12月1日 14.00~17.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 朝倉, 内田, 奥田, 神山, 門脇, 杉本, 立平, 松本, 股野, 各常任理事

### 報 告

〔庶務〕

当学会北海道支部は, 52年秋季大会を10月4~6日に開催したい意向。

〔天気〕

12月, 1月号まで進めている。地方委員に敬をとばして「天気」に掲載の原稿を依頼している。

〔気象集誌〕

来年度1年間で560頁, 文部省へ申請した。

〔気象研究ノート〕

130号「気象の測定」を印刷している。「大気放射」が遅れている。印刷業者は2社が建前となっており, 渡辺印刷が廃業となったので代わりに信行社(台東区上野5-12-4)と従来からの三報社とでやって貰うことになった。

〔講演企画〕

昭和52年度の春季大会は気象大学校が担当で, 期日は5月24日(火)~26日(木)を予定し, 会場は気象庁で行なうことに計画している。シンポジウムとしては、「乱流と境界層」を考えている。

〔長期計画〕

内田理事から11月の委員会の報告があった。当面, 気象学会の研究者の現状と問題点を調べることに, および教育問題(中学・高校を含む)を前回の委員会の討議事項を参考にして検討する必要性等が議論された。

〔南極〕

10月2日極地研で南研連気象小委員会(話題は Polex South にどう対処するか)が行なわれた。オブザーバーとして出席した門脇理事から内容について簡単に報告があった。

### 議 題

1. 昭和52年度総会ならびに春季大会について。

1) 期日は5月24日(火)~26日(木)を予定。

2) 場所は気象庁。

3) 提出議題は, 会費値上げについて。

最終予算案作成の時に検討する。

2. 外国人会員の取扱いについて。

気象集誌担当浅井理事から以前は会員であったが, 投稿時に会費の納入がない者の気象集誌投稿に対する措置について提案があった。

これに対し, 1年以上会費を納めない者は, 気象集誌への投稿は認めない。かりに投稿してきた場合, 会費の督促をしても送金がなければ原稿は返送する。

外国人向け気象学会案内が不備であるため庶務理事が修正し作成し直すことにする。

承認事項: 那田由直ほか17名の入会を承認。